

令和3年度 教員免許状更新講習シラバス

| | |
|--------|--|
| ■講習名 | 【必修】教育の最新事情 |
| ■時間数 | 6時間 |
| ■受講対象者 | 全教諭 |
| ■担当講師 | 吉原 恵子（兵庫大学生涯福祉学部教授） 北島 律之（兵庫大学共通教育機構教授） 松田 信樹（兵庫大学生涯福祉学部教授） 原 康行（兵庫大学非常勤講師） |
| ■評価方法 | 6講習の筆記試験の成績により評価します。各講習の合計点が100点満点となる成績評価を行い、60点以上を合格とし、履修認定を行います。 |
| ■教材等 | 必要に応じて資料を掲載する。 |

■講習の概要

多くの教育問題が発生している我が国の現状を踏まえて、様々な教育学的・教育心理学的理論や実践例を援用しつつ以下の課題について受講生と共に考えます。すなわち、教職についての省察、子どもの変化についての理解、教育政策の動向についての理解、学校の内外での連携協力についての理解などについて、教員に必要なとされる共通の今日的な教育課題、さらには最新知識・技能の理解を深めます。

講習Ⅰ 世界の教育改革と新学習指導要領で育む資質・能力

教育改革の流れと新学習指導要領の要点を概観する。具体的には、社会構造の変化と教育の関係、新しい能力観を踏まえ、それらが新学習指導要領にどのように反映されているのかについて理解する。

■成績評価の観点

- ・教育改革の流れと新学習指導要領の要点を整理して説明できる。（知識・技能）

〔担当：吉原 恵子〕

講習Ⅱ 個別最適な学びと最協働的な学びを促す教育

「『令和の日本型学校教育』の構築をめざして（答申）」の内容を理解するとともに、学校・園と教員に求められる姿や社会からの期待にどう応えていくのかなど、教育改革の考え方を教育実践にどのように組み込んでいくのかについて考える。

■成績評価の観点

- ・「日本型学校教育」の成り立ちと成果、課題を説明できる。（知識・技能）
- ・学校・園や教員は新しい課題と向き合い、社会の期待に応えていくのかについて考えをまとめることができる。（知識・技能、思考力・判断力・表現力）

〔担当：吉原 恵子〕

講習Ⅲ 脳科学と心理学からみた子どもの発達

近年の脳科学の知見を心理学的に解釈しながら、子どもの発達を考える。特に、知能と深く関わる「ワーキングメモリ」、他者とのコミュニケーションと深く関わる「心の理論」について、心理現象とその神経基盤を解説する。多様な子どもたちへの対応を行う上で有益である心の科学的理解に主眼を置く。

■成績評価の観点

知能やコミュニケーションにかかわる脳の仕組みと、それに関わる心理的な現象を、子どもの発達の観点から理解できていることを重視する。具体的には、脳における神経伝達物質やシナプスについての基本事項、ワーキングメモリや心の理論の概念、心の発達にともなう脳内の変化などから出題する。

〔担当：北島 律之〕

講習Ⅳ 学びの多様性とインクルーシブ教育

学校には、家庭環境、LGBT、異なる発達段階、障害、外国につながりのある子ども等、「多様な子ども」が在籍する。そして、脳の多様性、境界値知能、障害、貧困、虐待、不登校など「多様なニーズ」が存在する。これらの「多様性」を前提とした教育への意識変革が求められ、多様な「学びの場・内容・方法」を提供する知識と力量が求められている現状について解説する。

■成績評価の観点

「学びの多様性」について理解し、インクルーシブ教育システムの内容について説明することができる。

〔担当：原 康行〕

講習Ⅴ 発達障害のある子どもの理解とその支援

ASD(自閉症スペクトラム)、ADHD、LD等の発達障害の特性と特別なニーズを持つ子どもたち一人ひとりに対応した支援と教育的配慮の基本について概説する。また、今後の支援の方向性を示す改訂学習指導要領の内容にも触れる

■成績評価の観点

各発達障害の特性について理解し、自身の教育活動のなかで具体的支援や配慮について説明することができる。

〔担当：原 康行〕

講習Ⅵ 教師が身につけたいカウンセリングマインド

幼児や児童・生徒の気持ちに寄り添った教育を行う上で必要となるカウンセリングマインドとは、どのようなマインドかを概観する。子どもたちの複雑で微妙な心の動きに共感的な理解を示しつつ、如何に関わっていけばよいかを、事例を通して考える。

■成績評価の観点

カウンセリングマインドの概要を理解し、子どもとの関わりの中で、カウンセリングのマインドとテクニックをどのように活用するべきかを考えることができる。

〔担当：松田 信樹〕